

## 1-5

## ガラクトサミン肝障害の進行に対する黄連解毒湯エキスの抑制効果

○太田好次<sup>1)</sup>， 金剛むつみ<sup>2)</sup>

藤田保健衛生大学医学部・化学<sup>1)</sup>， 同・小児外科<sup>2)</sup>

【目的】黄連解毒湯（OGT）エキスはラットのガラクトサミン（GAL）肝障害に対して予防後果を示さないことが報告されているが，OGTの構成生薬の黄芩やその生薬の含有成分であるバイカレイン，バイカリン，オウゴンなどはラットのGAL肝障害に対して予防効果を示すことが報告されている。我々はOGTエキスが四塩化炭素肝障害の進行を抗酸化作用と肝中性脂肪（TG）蓄積阻害によって抑制することを明らかにしている。ラットのGAL肝障害の進行には酸化的ストレスや脂質代謝障害の関与が示されている。そこで，我々はラットのGAL肝障害の進行に対するOGTエキスの抑制効果について調べた。

【方法】肝障害は7週齢Wistar系雄性ラットにGAL（500mg/kg体重）を腹腔内投与して惹起させた。OGTエキス（500mg/kg体重）はツムラ（株）より恵与されたOGTエキス原末を精製水に懸濁し，GAL投与6時間後に経口投与した。ラットはGAL投与6時間と24時間後に屠殺した。肝臓は冷0.15M KClで灌流した後に摘出した。血清は，トランスアミナーゼ（ASTとALT），アルブミン，TG，過酸化脂質（LPO）などの測定に用いた。肝臓は，TG，LPO，還元型グルタチオン（GSH），スーパーオキシドジスムターゼ（SOD），カタラーゼ，グルタチオンペルオキシダーゼ（GSHpx），ミエロペロキシダーゼ（MPO）などの測定に用いた。

【結果】肝障害はGAL投与6時間後に認められ，24時間後で進行していた。血清LPO濃度はGAL投与6時間と24時間後では変動しなかったが，肝LPO量はGAL投与6時間後で増加し，24時間後で更に増加した。肝GSH量と抗酸化酵素のSOD，カタラーゼ，GSHpxなどの活性はGAL投与6時間後では変動しなかったが，24時間後では減少した。肝MPO活性（好中球浸潤の指標）はGAL投与6時間後で増加し，24時間後で更に増加した。また，血清TG濃度と肝TG量はGAL投与6時間後では変動しなかったが，24時間後では増加した。これらの肝障害の進行に伴う変動はすべて肝障害発症後のOGTエキス投与で抑制された。

【考察】OGTエキスはGAL肝障害の進行を抑制することが明らかとなった。このOGTエキスのGAL肝障害の進行に対する抑制効果には，そのエキスの抗酸化作用と肝TG蓄積阻害が寄与していると推察された。